

ベトナムにおける呼吸器内視鏡の普及、各種技術導入、技術向上

- 日本が世界をリードする気管支鏡は呼吸器診療の基本のひとつであるが、世界のガイドラインでも診療上重要とされるEBUS-TBNAなどの気管支鏡技術がベトナムでは未導入であった。前身事業にて2017-2019年度にはベトナム国内でのEBUS実施を成功させ、計8病院で100例程度の実施、計12施設の延べ45人の医師らに研修を行い、保険適応を取得し、一部でEBUSの導入がはじまりつつあるが、2020,2021はCOVID-19の影響で簡便な代替事業のみが実施され7病院で機器購入Pending、2病院で機器購入も未開始、購入済みの2病院で件数のびず。ほか、ベトナム呼吸器学会より、内科胸腔鏡やクライオバイオプシーなどのさらに新規の技術の導入補助の要請がある。2022年終盤は往来が再開し、本来の活動に戻りつつある。
- オリンパスベトナム法人の協力のもと、ベトナム語での直接指導ができる専門の日本人医師を中心に、NCGM呼吸器内科として、ベトナム呼吸器学会を窓口としてベトナム全土の主要病院の優秀な医師を募集し、NCGMでの3週間の研修および帰国後に専門家が研修生の医療機関を訪れ講義や実習を行うことで、ベトナム全体へEBUSなどの呼吸器内視鏡の早期展開を行う。
- 診療に必要な世界標準の気管支鏡手技が普及することでベトナム全体の莫大な患者に健康利益をおよぼす。医療保険への組み入れなどを経て数年以内にベトナム全土の中核病院に普及、また10年以内にはEBUSの省病院レベルまでの普及を目指せるように中核病院がEBUSの教育ができるようになるよう援助する。

